

能代山本広域市町村圏組合消防本部
地球温暖化対策実行計画

実績報告

平成23年7月

消防本部総務課

(1) はじめに

当消防本部では「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき「能代山本広域市町村圏組合消防本部地球温暖化対策実行計画」を平成18年4月に策定し、平成18年度から平成22年度までの5年間、温室効果ガスの削減に取り組んできました。本報告書では計画期間の削減実績について報告します。

(2) 地球温暖化対策実行計画の概要

計 画 期 間 平成18年度～平成22年度(5年間)
計画の基準年度 平成17年度
計 画 の 対 象 職員が直接実施する消防の事務・活動の全て
削 減 目 標 基準年度(平成17年度)の温室効果ガス排出量から平成22年度末には**5%以上の削減**

(3) 平成22年度実績

平成22年度における各種類の実績を基準年度と比較した状況は次のとおりである。温室効果ガス排出量は基準年度に比べ△12.4%となり、削減目標の5%以上よりも大幅に削減することができた。

| 項 目 | 種 類 | 基準数値 (平成17年度) | 実 績 (平成22年度) | 評 価 | 基 準 年度比 |
|------------------|---------|---------------------------------|---------------------------------|-----|----------------|
| 燃料使用量 | ガソリン | 23,594 ㍓ | 29,024 ㍓ | × | 23.0% 増 |
| | 灯 油 | 44,869 ㍓ | 40,082 ㍓ | ○ | 10.7% 減 |
| | 軽 油 | 25,352 ㍓ | 23,933 ㍓ | ○ | 5.6% 減 |
| | A 重油 | 10,000 ㍓ | 9,000 ㍓ | ○ | 10.0% 減 |
| | 液化石油ガス | 3,085 kg | 2,270 kg | ○ | 26.4% 減 |
| | 都市ガス | 51,904 m ³ | 16,159 m ³ | ○ | 68.9% 減 |
| 電気使用量 | 電 気 | 364,016 kwh | 401,829 kwh | × | 10.4% 増 |
| 消防車両の 走行距離 | ガソリン車 | 138,183 km | 193,953 km | × | 40.4% 増 |
| | ディーゼル車 | 133,217 km | 104,898 km | ○ | 21.3% 減 |
| | エアコン使用車 | 31 台 | 32 台 | × | 3.2% 増 |
| 温室効果ガス排出量 | | 511,972kg-CO₂ | 448,500kg-CO₂ | ○ | 12.4% 減 |

(4) 温室効果ガス排出量の年度別比較

| | 温室効果ガス排出量 | 基準年度との差引 | 基準年度比削減率 |
|--------|----------------------------|----------------------------|---------------|
| 平成17年度 | 511,972 kg-CO ₂ | — | — |
| 平成18年度 | 502,280 kg-CO ₂ | △9,692 kg-CO ₂ | △1.9% |
| 平成19年度 | 475,182 kg-CO ₂ | △36,790 kg-CO ₂ | △7.2% |
| 平成20年度 | 425,738 kg-CO ₂ | △86,234 kg-CO ₂ | △16.8% |
| 平成21年度 | 438,039 kg-CO ₂ | △73,933 kg-CO ₂ | △14.4% |
| 平成22年度 | 448,500 kg-CO ₂ | △63,472 kg-CO ₂ | △12.4% |

(5) 評価

計画期間内では最終的に△12.4%と大幅な削減が達成されたが、年度単位で比較すると平成20年度から平成22年度にかけては温室効果ガス排出量が増加した結果となった。

種類別に評価すると、基準年度と比較して削減できたものは、灯油、軽油、A重油、液化石油ガス、都市ガスとなっている。特に都市ガスと液化石油ガスについては大幅な削減を達成しており、徹底した暖房機器の使用制限によるものとする。

一方、増加したものはガソリン、電気、ガソリン車の走行距離、エアコン使用車となっている。増加した要因としては、ガソリン車の増台やOA機器等の増加に伴う電気使用量の増加と考えられる。消防といった特殊な業務上、ガソリンの使用料や走行距離を制限することは難しく増加はやむを得ないとしても、電気使用量に関しては職員の努力で抑えることが可能なものである。電気使用量は平成18年度以降、毎年増加している状況であり、年間の温室効果ガス排出量の約3割は電気使用量から排出されている。温室効果ガス排出量を削減させるためには電気使用量を抑えることが重要であり、さらなる取組みや改善が必要とされる。

当消防本部では平成23年度から第2次地球温暖化対策実行計画を策定しており、今後もさらなる温室効果ガス排出量の削減を目指して地球温暖化対策に取り組んでいく。